

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	ミュージックリテラシー3	
科目基礎情報					
開設学科	コンサート・イベント科	コース名	全コース	開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位			授業形態	講義
教科書/教材	内容に応じて資料を配布する。				
担当教員情報					
担当教員	研井陽介	実務経験の有無・職種	有・アーティストマネージャー		
学習目的					
プロダクション・アーティストマネージャーの立位置から、「音楽の著作権」を再度解説し、音楽業界での即実践を目標とした講義。講師自身の体験例・最新の実例を織り交ぜながら、学生が著作権といった難しい法令に基づいた内容を丁寧に分かりやすく、興味の幅を広くし、理解出来ることを目的とする。音楽業界で働く際に必要となる知識であり、全ての作品においてどういった権利が発生しているのかを考察し、判断できることを目的とする。また、エンターテインメントの基軸となる「映画の著作権」「絵画の著作権」「プログラムの著作権」の解説も行い、これにおいても理解する。					
到達目標					
1年次に履修した「ミュージックリテラシー1・2」と合わせて、実践的な理解が出来る。この講義を受講することで目に見えないビジネススタイルのひとつとして「知的財産ビジネス」が存在する事を理解することが出来る。また目標を達成するために、一線で活躍するゲストの話を聞くことにより、より深く理解することが出来る。					
教育方法等					
授業概要	この授業では、口頭による説明と黒板への板書を用いて、講義を進め、理解を深める。また実際の実例を用いて、どんな作品を扱う際に、どんな仕事で、どんな考えが必要になり、なにに注意をしなければいけないのかを実際に理解出来ることを目指す。授業内に出てくる言葉なども難しいものも多いが、ひとつずつ用語の理解もし、授業内容をしっかりと理解出来ることを目指す。				
注意点	この授業では興味も持たにくい内容であっても、積極的に話を聞く心構えと、著作権の大切さを理解しながら受講すること。講師が話している際はしっかりと聞き、必要なことをメモを取ること。受講中の態度はしっかりとした姿勢で、厳しく対応する。実戦に必要な最低限度の自らの生活や態度に致しても常に高い意識を持ち続ける必要がある。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することが出来ない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	100%	定期試験・提出課題によって評価		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
平常点	0%				
授業計画 (1回～15回)					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	プロローグ・著作権とは	著作権の概念と対象となるもの(作品)			
2回	知的財産権とは	知的財産権としての美術や音楽、文芸などの思想や感情としての著作物を把握します			
3回	音楽の著作権とは	音楽業界に於ける著作権が何に対して発生しているのかを理解します			
4回	著作者人格権と著作隣接権1	人格的利益の保護と思想や感情の利益侵害を把握します			
5回	著作者人格権と著作隣接権2	著作物に貢献者に対する契約と利益。音楽業界でのケースを理解します			
6回	特許権と商標権・産業財産権1	特許権とはなにか。発明者とその継承人に対して付与する行政行為、概要と歴史を把握します			
7回	特許権と商標権・産業財産権2	商標とは何か。身近なものでどんなものがあるのかを各自探し、使用方法を知ります			
8回	特許権と商標権・産業財産権3	産業財産権とは何か。商品の形状、工業デザインなど実際に身近にあるものを理解します			
9回	音楽出版社とタイアップ1	音楽出版社とはどういった働きがあるかを理解し、タイアップの仕組みを把握します			
10回	音楽出版社とタイアップ2	タイアップへの仕組みと共に、実際の取り組みを取り上げて理解します			
11回	著作権ビジネスを掘り下げる1	日本音楽著作権協会(JASRAC)の役割とその仕事内容を理解します			
12回	著作権ビジネスを掘り下げる2	JASRAC以外の管理事業者の存在とその展開を把握します			
13回	前期試験対策	今までに学んだことをまとめ、理解する			
14回	著作権ビジネスを掘り下げる3	ヒット曲の裏側にある原盤権と譲渡権を理解します			
15回	著作権ビジネスを掘り下げる4	契約方法の様々をしり、把握します(ショットや委託)			